

3 「他の教科」の免許状の取得方法(別表第4)

所要資格及び最低修得単位数

【別表第4、施行規則第15条】

受けようとする他の教科 についての免許状の種類		有することを 必要とする免許 状	最低修得単位数		
			教科に関する専門的事 項に関する科目	各教科の指導法に 関する科目	大学が独自に 設定する科目
高等学校教諭	専修免許状	専修免許状	20	4	24
	1種免許状	専修免許状 1種免許状	20	4	-

教科に関する専門的事項に関 する科目	免許教科の種類に応じた「教科に関する専門的事項に関する科目」(P19参照)の すべての科目について、それぞれ1単位以上修得すること ※すべての科目において、一般的包括的内容を含めた上で修得する
-----------------------	--

各教科の指導法に関する科目	受けようとする免許教科ごとに修得すること
---------------	----------------------

大学が独自に設定する科目	「教科に関する専門的事項に関する科目」又は「各教科の指導法に関する科目又 は教諭の教育の基礎的理解に関する科目等」のうち1以上の科目について修得す ること
--------------	---

(注) 1 専修免許状に係る「大学が独自に設定する科目」の単位は、大学院、大学(短期大学を除く。)の専
攻科において修得すること。

【別表第4備考第2号】

2 専修免許状の授与を受けようとする場合において、当該教科についての1種免許状を有している
ときは、専修免許状の最低修得単位数から1種免許状の最低修得単位数を差し引いて修得すること。

【別表第4備考第4号】

3 大学の他に、認定講習又は公開講座等により修得した単位をもって替えることができる。

【別表第3備考第6号】

4 免許法第16条の4第1項に定める「教科の領域の一部に関する事項」についての高等学校教諭1
種免許状を有する者が、下記の教科の免許状を取得する場合は、下記の科目及び単位を修得した
ものとみなす。

【施行規則第15条第2項】

受けようとする 免許教科	有することを 必要とする免許状	教科に関する専門的事項に関する科目	各教科の指導法に 関する科目
保健体育	柔道又は剣道	○体育実技 2単位 ○「体育原理、体育心理学、 2単位 体育経営管理学、体育社会学」 及び運動学(運動方法学を含む。)	1単位
工業	情報技術、建築、 インテリア又は デザイン	○工業の関係科目 4単位	1単位
商業	情報処理又は 計算実務	○商業の関係科目 4単位	1単位

(2) 単位の修得方法

①「教科に関する専門的事項に関する科目」の修得方法

【施行規則第5条の表備考第1号】

免許教科	教科に関する専門的事項に関する科目
国語	○ 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) ○ 国文学(国文学史を含む。) ○ 漢文学
地理歴史	○ 日本史 ○ 外国史 ○ 人文地理学・自然地理学 ○ 地誌
公民	○ 「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」 ○ 「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 ○ 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」
数学	○ 代数学 ○ 幾何学 ○ 解析学 ○ 「確率論、統計学」 ○ コンピュータ
理科	○ 物理学 ○ 化学 ○ 生物学 ○ 地学 ○ 「物理学実験(コンピュータ活用を含む。)、化学実験(コンピュータ活用を含む。)、生物学実験(コンピュータ活用を含む。)、地学実験(コンピュータ活用を含む。)」
音楽	○ ソルフェージュ ○ 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。) ○ 器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。) ○ 指揮法 ○ 音楽理論・作曲法(編曲法を含む。) ○ 音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)
美術	○ 絵画(映像メディア表現を含む。) ○ 彫刻 ○ デザイン(映像メディア表現を含む。) ○ 美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)
工芸	○ 図法・製図 ○ デザイン ○ 工芸制作(プロダクト制作を含む。) ○ 工芸理論・デザイン理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。)
福祉	○ 社会福祉学(職業指導を含む。) ○ 高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉 ○ 社会福祉援助技術 ○ 介護理論・介護技術 ○ 社会福祉総合実習(社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。) ○ 人体構造に関する理解・日常生活行動に関する理解 ○ 加齢に関する理解・障害に関する理解
商船	○ 商船の関係科目 ○ 職業指導

免許教科	教科に関する専門的事項に関する科目
書道	○ 書道(書写を含む。) ○ 書道史 ○ 「書論、鑑賞」 ○ 「国文学、漢文学」
保健体育	○ 体育実技 ○ 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。) ○ 生理学(運動生理学を含む。) ○ 衛生学・公衆衛生学 ○ 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)
保健	○ 「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」 ○ 衛生学・公衆衛生学 ○ 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)
看護	○ 「生理学、生化学、病理学、微生物学、薬理学」 ○ 看護学(成人看護学、老年看護学及び母子看護学を含む。) ○ 看護実習
家庭	○ 家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。) ○ 被服学(被服製作実習を含む。) ○ 食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。) ○ 住居学(製図を含む。) ○ 保育学(実習及び家庭看護を含む。) ○ 家庭電気・家庭機械・情報処理
情報	○ 情報社会・情報倫理 ○ コンピュータ・情報処理(実習を含む。) ○ 情報システム(実習を含む。) ○ 情報通信ネットワーク(実習を含む。) ○ マルチメディア表現・マルチメディア技術(実習を含む。) ○ 情報と職業
農業	○ 農業の関係科目 ○ 職業指導
工業	○ 工業の関係科目 ○ 職業指導
商業	○ 商業の関係科目 ○ 職業指導
水産	○ 水産の関係科目 ○ 職業指導
職業指導	○ 職業指導 ○ 職業指導の技術 ○ 職業指導の運営管理
英語	○ 英語学 ○ 英語文学 ○ 英語コミュニケーション ○ 異文化理解
宗教	○ 宗教学 ○ 宗教史 ○ 「教理学、哲学」

※すべての科目において、一般的包括的内容を含めて修得する。